

◎地球温暖化対策 (6)

2007年度の我が国の温室効果ガス排出量（確定値）について

環境省から、2007年度（平成19年度）の温室効果ガス排出量の確定値が公表されています。これによりますと、2007年度の国内での総排出量は約13億7400万トンで、京都議定書の規定による基準年（1990年）の総排出量と比べ、9%上回っており、2006年度に前年度比ではじめて減少したにも関わらず、2007年度はさらに前年度比で2.4%増加となりました。

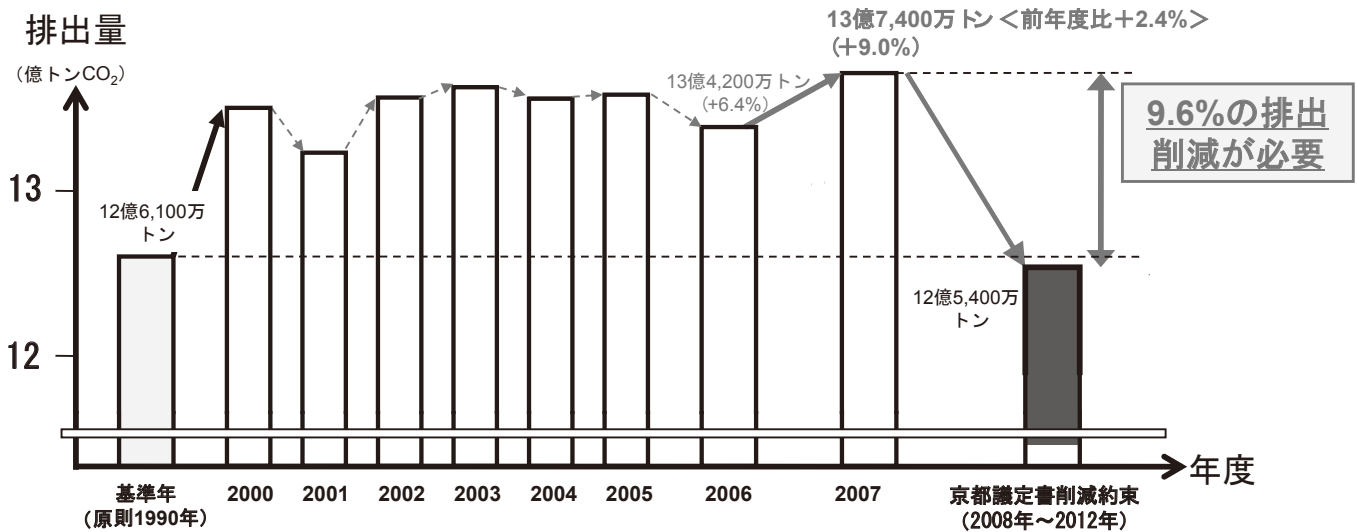
これは、エネルギー起源二酸化炭素について、家庭部門、産業部門などからの排出量が増加したことなどによるものです。議定書の2012年までに6%削減目標達成には、9.6%の削減が必要となっています。

政府は、この9月に、2020年までに1990年比25%削減の中期目標を発表しており、今後さらに目標達成に向けた具体策などが示されるものと思われます。

なお、家庭部門の二酸化炭素排出量は、全体の約13.1%ですが、基準年比41.2%増、前年比8.4%増と大きく伸びています。もっとも排出量の大きい産業部門はもちろん、身近な家庭から毎日の暮らしの中での取り組みも大切です。

我が国の温室効果ガス排出量

2007年度における我が国の排出量は、基準年比9.0%上回っており、議定書の6%削減約束の達成には、9.6%の排出削減が必要。



京都学生祭典に参加

10月10日京都駅ビルで京都学生祭典に生活環境部会6人で参加してきました。私たちは大空広場の紙芝居ブースで「地球環境保護戦士がんばれエコマン」〔私たちの手作り紙芝居。市内保育園、幼稚園の公演を終え、現在は市内小学校で公演中〕を公演しました。

紙芝居を終えると「改めて一人ひとりの意識の大切さを考えさせられました。」「羽曳野市からわざわざ来ていただき有難うございます。」などお声を掛けて頂きました。学生の一人から、「この紙芝居は凄い。今問題になっている、環境問題が全てお話の中にある。」と感動の言葉を頂き、これには気分を良くしました。

また、駅前広場においては、企業連携ブース、行政ブース、

羽曳野市婦人団体協議会 生活環境部会 塚本美幸

一般団体、学生ブースでさまざまなエコ活動を展示。そこで私たち生活環境部会での5年間の活動もパネル展示しました。紙芝居を公演したほか、環境問題啓発音頭「袋音頭」を流し、傘の再利用で作ったエコバッグで踊り、京都駅前での最高の場所での活動に、参加した私たち6人は感動と興奮でした。地球温暖化防止活動に取り組まれていることを肌で感じることができ、私たち活動に

弾みがつき、決意も新たに京都から帰ってきました。



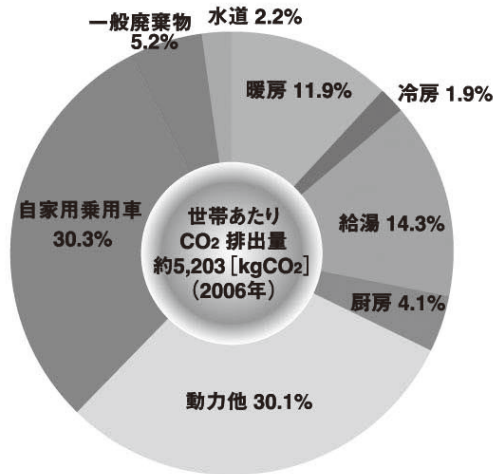
— 今こそ行動を！ —

私たちができること

— うちエコ！ アクション① —

現在、国民1人あたりが家庭から排出する二酸化炭素は1日平均で約6 kg。
自分にできることからひとつひとつ、取組を積み重ねて二酸化炭素の排出量を減らしましょう。

家庭からの二酸化炭素排出量



出典：国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス
「日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2006年度)」
(2008.7.9発表)

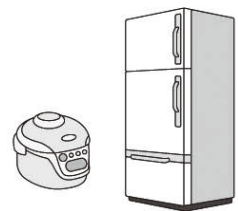
お風呂／トイレで



- シャワーの利用時間を1日1分短くする **74g**
- 風呂の残り湯を洗濯に使いまわす **7g**
- 入浴は間隔をあけずに行う **86g**
- 使わないときは温水洗浄便座のフタを閉める **15g**

キッチンで

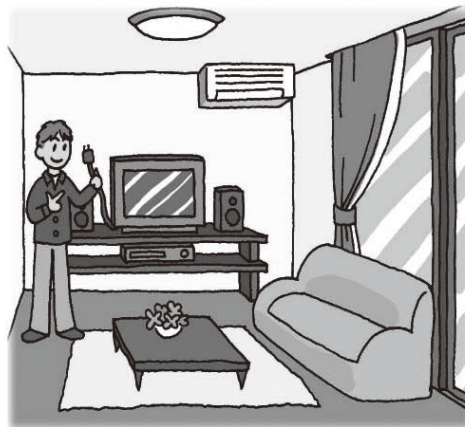
- 炊飯器の保温をやめる **37g**
- ガスコンロの炎をなべ底からはみ出さないように調節する **5g**
- 冷蔵庫にもものを詰め込み過ぎない **18g**
- 冷蔵庫を壁から適切な間隔で設置する **19g**



※数字は1人1日あたりのCO₂削減量
出典：チーム・マイナス6%（環境省）HP
めざせ！1人1日1kgCO₂削減「私のチャレンジ宣言」より

リビングで

- テレビを見ないときは消す **13g**
- 1日1時間パソコンの利用を減らす (デスクトップ型パソコン) **13g**
- 主電源をこまめに切って待機電力を節約 **65g**
- 夏の冷房時の設定温度を26℃から28℃に2℃高くする。 **83g**
- 冬の暖房時の設定温度を22℃から20℃に2℃低くする。 **96g**



環境に配慮した製品についているマークを参考に、グリーン購入を心がけましょう。



エコマーク

「生産」から「消費」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた文具などの商品につけられています。



省エネ性マーク

省エネ基準を満たしたエアコン、蛍光灯器具、テレビ、冷蔵庫、冷凍庫、ストーブ、ガス調理機器、ガス温水機器、石油温水機器、電気洗濯機、電子レンジ、電子計算機、電気ファンヒーターについている。緑色のラベルは省エネ基準達成率100%以上の製品。



国際エネルギースターマーク

待機時消費電力に関する基準を満たしたコンピュータ、プリンタ、FAX、コピーなど8つのOA機器についている。



グリーンマーク

トイレットペーパー、コピー用紙、ノートなど古紙を規定の割合以上利用した製品についている。



統一省エネラベル

エアコン、テレビ、電気冷蔵庫については機器単体のエネルギー消費量が大きく、製品毎の省エネ性能の差が大きいことから、省エネラベル制度及び年間の目安電気料金を加え、多段階評価制度を組み合わせた統一省エネラベルによる表示を定めています。

(出典) 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイトより